



高速しが

令和元年
10月号

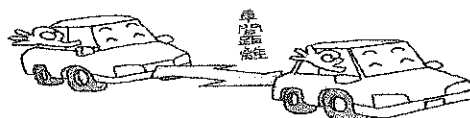
発行 滋賀県高速道路交通安全協議会・滋賀県高速道路交通警察隊

秋の行楽シーズンです!!

楽しい家族旅行も、ちょっとした油断が悲惨な事故を招きます。
次のような行為は『重大事故』に直結しますから絶対にやめましょう。

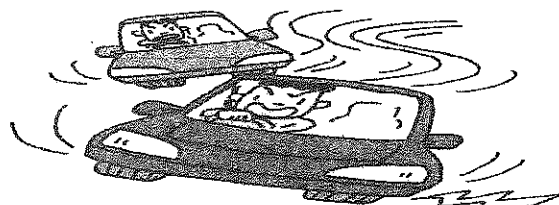
車間距離不保持

十分な車間距離をとっていないと、前車が危険回避のため急ブレーキをかけた場合など、とっさの対応ができず事故に至る危険が増します。



速度超過

速度が早くなればなるほど停止するまでの距離が延びるほか、雨天時などスリップの原因にもなります。



全席シートベルト非着用

高速道路は車の速度が早く事故の衝撃で車外放出される危険性が高いことから、前席はもちろん、後部座席の乗員も必ずシートベルトを締め、自分の身を守ることが大切です。

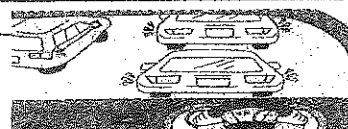


携帯電話保持

携帯電話を保持しての通話等は、ハンドル操作が不安定になり事故の危険性が増します。また、高速道路では、路肩に止まって通話等しても駐停車違反になります。

ハザードランプ推奨

渋滞のため車両の速度が落ちると、追突事故が発生しやすい状況になります。前方で渋滞を発見し、低速走行や停止する場合は、事前にハザードランプを点灯して、後続車に合図しましょう。



あなたの体調は万全ですか？

近頃、持病や体調不良を原因とする悲惨な交通事故が頻発しています。体力に自信がある人ほど自らの体調管理をおろそかにする傾向が見られ、運転前体調不良を感じていても、これくらいなら大丈夫と運転を強行してしまいがちです。車は生活に欠かせない便利な道具ですが、操作する人の意思が働かなくなれば車は暴走し、一瞬にして他人を巻き込む凶器と化すものでもあることを絶対に忘れてはいけません。病気や体調不良が交通事故につながることを十分理解し、日頃から体調にも気を配り、安全運転に心がけましょう。

安全運転を実践するための心がけ

①一定の時間に就寝し、睡眠は最低7～8時間とりましょう。

②ふだんから適度に運動をしましょう。

③休日は趣味等でストレスを解消しましょう。

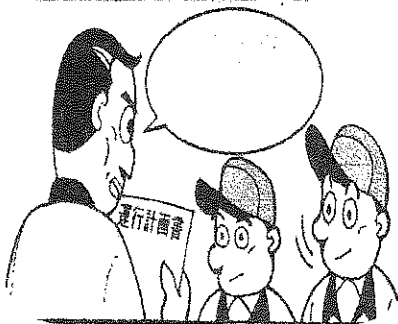
④定期的な健康診断で病気の早期発見に努めましょう。

⑤特に中高年ドライバーは、こまめに身体機能をチェックしましょう。

⑥大きないびきをかく人は、居眠り運転の危険があります。

⑦体調不良を感じた時は、運転を控えましょう。

⑧バランスの良い食事を規則正しくとりましょう。



脇見運転は危険!

運転中の携帯電話やカーナビの操作などの脇見運転は、とっさの判断がつかず大事故につながる可能性があります。

走行中はもとより、渋滞中に「少しくらい大丈夫だろう」と画面を注視してしまい、前方不注意で追突事故を起こすこともあります。

加害者にも被害者にもならないように脇見運転はやめましょう。

